

シンポジウム

東京を散歩哲学する



東京都北区十条銀座商店街（撮影：岡村民夫）

プログラム

講演

島田雅彦（法政大学国際文化学部教授、小説家）

「チャランポランへの誘い」

伊東弘樹（早稲田大学教育学研究科後期課程、近代文学研究）

「「自分」を問う散歩——国木田独歩「武蔵野」」

岡村民夫（法政大学国際文化学部教授、表象文化論）

「散歩哲学の先駆者 ニーチェ、柳田国男、萩原朔太郎」

コメント：山崎修平（詩人、文芸評論家）

陣内秀信（法政大学名誉教授、建築史、都市史）

ヴェネツィアから十条、町田、秋田にわたる自身の散歩経験を人類学的スケールで語った島田雅彦氏の近著『散歩哲学のすすめ よく歩き、よく考える』（ハヤカワ新書、2024年）を受けたシンポジウムです。東京各所の散歩を歴史的に省みることを通し、散歩がタイムトラベルであり、無意識のフィールドワークであり、生きる技術（アート）であることを浮かびあがらせたいと思います。

2025年3月1日（土）13:00～16:50 法政大学市ヶ谷キャンパス 大内山校舎 Y503

EToS 江戸東京研究センター
Hosei University Research Center for
Edo-Tokyo Studies
「表象文化と近未来デザイン」プロジェクト研究会

法政大学
HOSEI University

対面開催
申込不要